

## (1)-カルチャーセンター

「日本人は働きすぎる」とよく言われますが、最近では日本人の生活も変わってきました。確かに、今までは忙しすぎて、毎日の生活や仕事のことしか考えられませんでした。しかし、経済が発展して生活に余裕ができたので、自分自身を高めるために時間を使いたいと思う人が増えました。また、最近では「生涯学習」という考え方が広まり、学校を卒業した後も生きている間はずっと何かを学び続けたい、と思う人が多くなりました。その結果、カルチャーセンター、公民館、図書館、放送大学など、大人も学べるところが増えてきました。中でも、カルチャーセンターは、だれでも、いつからでも学ぶことができるので、とても人気があります。

カルチャーセンターの講座の種類は、スポーツ、伝統芸能、料理、語学、音楽、美術、コンピュータなどたくさんあって、利用者は、自由好きな講座が選べます。例えば、手芸教室やエアロビクスの教室などは主婦に人気がありますし、大学で勉強するような日本文学や経済学の講座が開かれているところもあります。開講時間も、朝7時ごろから夜9時ごろまでと、いろいろな人が利用しやすくなっています。ですから、昼間は働いている人たちも大勢通っています。OLが出勤前にプールで泳ぐこともできるし、サラリーマンが、仕事が終

わってから語学ごがくの勉強べんきょうをすることもできます。また、平日へいじつはほとんど時間じかんがない人ひとでも、日曜日にちようびの講座こうざに参加さんかして、写生しゃせいに出かけたり、テニス・スクールで汗あせを流ながしたりすることもできるのです。

その上うえ、カルチャーセンターは、「学ぶ場まなば」であると同時に、「出会いどうじの場で」という役割やくわりも果たしています。つまり、同じ興味おなきょうみを持つ人もひとが、老若男女ろうにやくなんによを問わずと集まるあつので、幅広い人間関係はばひろにんげんかんけいを作ることができるのです。ここで、新あたらしい友人ゆうじんを得る人えひともたくさんいます。

カルチャーセンターは、学校がっこうと違ってちが、必ずかならしも行く必要いひつようはありません。しかし、心豊こころゆたかな人生じんせいを送るおくための一つひとの手段しゅだんとして、このような場ばを上手じょうずに利用りようする人ひとが、これからもますます増ふえていくでしょう。

文章出處： みんなの教材サイト－中級読解

網址：

<https://minnanokyozei.jp/kyozai/comprehension/middle/home/ja/render.do>